

OfByForコラム 地域の地域による 地域のための Something NEWS

第21回

地域の収穫祭は、いまが旬 ——土の持つパワーを引き出せ

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p
代表理事 佐藤建吉

▼収穫祭は食文化祭

11月の三連休は、全国各地で地域の行事や祭り、イベントで賑わっている。大学でも文化祭と称し、テントの出店が列をなす。

▼土の市の収穫祭

俄かに営業許可を取り、定番のピザ、お好み焼き、焼きそば、焼き鳥などが出店される。留学生が参加して、中国、モンゴル、ベトナム、カンボジアなどの現地料理も提供される。大学祭でも食の出店は一番人気だ。

▼土の市の収穫祭

筆者は今年11月の連休に、軽井沢町「発地市庭」で開催された収穫祭「土ノ市（ひじのいち）」に出店した。「発地市庭」は近郷の産物を常時販売する道の駅に似た施設であるが、11月の収穫祭は年内最後の祭りでもある。東北大震災で被害を受けた大槌町の海産物を岩手県から直送し調理提供する支援行事、焼きホタテの出店は朝から長蛇の列で大盛況であった。食以外も陶芸作家作品・手芸品のワークショップ、加工品、木工品、レトロな雑貨類など出店は多岐にわたる。

①「ファミッド風車」

クリスマス時期に1カ月間だけ、ドイツでは町の中央マーケットに大型の木製「ファミッド風車」が特設される。これにちなみ、ろうそくの上昇気流で回転する小型の木工装飾品としての「ファミッド風車」の回転する仕組みや特性を調べるワークショップを企画した。

②QRコード

現在では商品や資料などにQRコードが多用されている。これは、コンピュータやICT社会のおしつけ、技術でもある。その仕組みに関与することなくカメラを向ける。そこで、その技術や仕組みに関わりを持つことを意図して、QRコードの黒白の模様を手書きして遊ぶワークショップを企画

▼農産品の6次化

収穫祭では第1次産品としての農産品や水産品のほか、それらの加工品が提供される。第1次産品の6次化が叫ばれその成果物も提供される。

日本人の食事が洋食化し定着し、久しい。食事は栄養摂取の基本であり、生命の維持には必須である。したがって、その質や量と関連して肥満や病気の原因にもなりうる。つまり、食材の提供は、地域での重要な産業である。

しかし経済性、つまり、企業の利益が先行すると、食材を提供する農



中島夫人の熱い語り(プラムの郷)

▼環境との協働が「身土不二」

私たちが人間は、地に足を置き、手を動かし生きる生物である。冬に向かうこの時期、「カメムシ」を観察すると、捕獲力の強い足を持ち、壁や天井に身を置き、活動している。足や手は共通して大事な器官である。植物も外部からの施肥がないと、捕捉力や吸収力が強化されるという。

筆者も無農薬で「コシヒカリ」を育て、作って2年になる。0.8反歩(240平方尺)の面積を借りて体験しているが、6依の収穫を得た。農業を体験すると、まさに百姓といわれる貴重な体験をする。コシヒカリも、土壌から栄養を獲得しようと、根を強くする。

最近、無農薬・無肥料でリンゴを育成、営農している農園を知り訪ねた。群馬県自然農法園「プラムの郷」である。無施肥、無農薬、無除草剤として、毒素がない健康な土壌づくりのために7~8年かかるが、それにより、植物の生命力を引き出す。農園経営者夫人はそのように熱く語った。「土と水の持つ栄養を、吸収獲得する育成力を樹木自身が持つ。そして子孫のために栄養として果実とする。」

こうして造られたリンゴ(シナノスイート、シナノゴールド、ほか)は、施肥・農薬使用のものに比べ、味が濃く、品質保持期間が長いという。完熟リンゴ・ジュースも、保存料を加えないで瓶詰めして販売している。それは、毒性の無い完全な自然食品である。

地域には、地域固有の土壌や水質がある。そして独特の気候や気象があり、生物を育む。松島湾での牡蠣の養殖では、流れ込む川の上流で樹木や土壌が命であるとされ「森は海の恋人」という環境運動が行われている。土と水、それを、生かす、活かすことが、Of By Forの一つの切り口であると、確信している。それに気づき、為すのは人間の役割である。

▼土と水と太陽そして人間

収穫祭は、その名の通り、稔りの成果祭りである。稔りの源泉は土と水、そして太陽だ。緑り返しになるが、発地市庭の収穫祭は「土ノ市」と命名している。

自作のQRコードを作成した小2女子



現在では商品や資料などにQRコードが多用されている。これは、コンピュータやICT社会のおしつけ、技術でもある。その仕組みに関与することなくカメラを向ける。そこで、その技術や仕組みに関わりを持つことを意図して、QRコードの黒白の模様を手書きして遊ぶワークショップを企画

連載